

# 概 況 編

# I 日高農業の全道に占める位置（令和3年）

項目	単位	日 高		北 海 道		(A)/(B) %	摘 要
		実数 (A)	構成比	実数 (B)	構成比		
総土地面積	ha	481,108	-	8,342,441	-	5.8	国土交通省国土地理院「全国都道府 県市町村別面積調べ」(R3.10.1時点)
耕地面積	ha	38,760	100.0%	1,142,700	100.0%	3.4	北海道農林水産統計年報(R3)
田	ha	4,734	12.2%	222,000	19.4%	2.1	※畑の面積に牧草地を含む
畑	ha	34,026	87.8%	920,700	80.6%	3.7	
総農家数	戸	1,579	-	37,594	-	4.2	2020農林業センサス
販売農家	戸	1,355	100.0%	32,232	100.0%	4.2	
総人口	人	62,976	-	5,228,732	-	1.2	住民基本台帳 (R4.1.1)
農家人口 (販売農家)	人	3,432	-	109,188	-	3.1	2020農林業センサス
農業就業人口 (販売農家)	人	2,670	-	80,552	-	3.3	
主要作物作付面積							
水稲	ha	1,220	-	96,100	-	1.3	北海道農林水産統計年報(R3) 農務課調べ
小麦	ha	70	-	126,100	-	0.1	
ばれいしょ	ha	37	-	47,100	-	0.1	
大豆	ha	37	-	42,000	-	0.1	
てんさい	ha	42	-	57,700	-	0.1	
野菜 (トマト)	ha	151	-	817	-	18.5	
花き	ha	22	-	417	-	5.2	
飼料作物	ha	32,494	-	587,700	-	5.5	
家畜飼養頭羽数							
乳用牛 (めす)	頭	8,787	-	829,900	-	1.1	肉畜等に関する調査及び畜産統計調 査
肉用牛	頭	15,324	-	536,200	-	2.9	
軽種馬	頭	14,278	-	17,618	-	81.0	
日本軽種馬協会「軽種馬統計」(繁殖牝馬頭 数+生産頭数)							
農業産出額 (R2)	千万円	5,986	100.0%	126,670	100.0%	4.7	令和2年市町村別農業産出額 (推計 値) (北海道農林水産統計年報(R2)) 令和2年農業算出額及び生産農業所得 (都道府県別)
耕種計	千万円	759	12.7%	53,290	42.1%	1.4	
うち米	千万円	134	2.2%	11,980	9.5%	1.1	
うち野菜	千万円	556	9.3%	21,450	16.9%	2.6	
畜産計	千万円	5,227	87.3%	73,370	57.9%	7.1	
うち乳用牛	千万円	570	9.5%	49,830	39.3%	1.1	
うち肉用牛	千万円	436	7.3%	9,600	7.6%	4.5	
畜産その他	千万円	4,221	70.5%	13,940	11.0%	30.3	
※端数処理等から合計と一致しない。							

## Ⅱ 日高農業のおいたち

### 1. 日高農業のはじまり

松前藩は本道の統治を始めた頃、藩士に対する禄の代償として、蝦夷地の海岸（漁場）を分割して与える「場所制度」を実施した。当時の東蝦夷地日高国に沙流、新冠、染退、静内、三石、浦河、油駒の7つの場所が設けられていた。この頃の日高の産物は主に昆布等の海産物であり、農耕はアイヌの女性たちが自家食用として春夏の漁業の余暇に粟や稗を作っていた程度であった。

その後、文化年間の資料によれば、各場所の会所（事務所）では周辺に畑を開墾し、そ菜を作っていたとある。当時、場所間の交通運搬手段は馬に頼っており、各場所に厩を設け南部藩などから馬が導入、飼育されていた。

明治以降の農業開拓は、明治3年「東蝦夷地御親料規則」（移住民扶助法）施行後、彦根藩等の藩士や九州の農民が各地に入植したことに始まる。しかし、当時の開墾は困難を極め、数年後には離散、転職した者も多かった。

その後、明治14、15年の2次にわたり、神戸から開拓会社「赤心社」が入植し、耕牛・プラウにより半年間に18町歩を開墾した頃から開拓が急速に進んだ。当時の作物は大豆、小豆、蕎麦、馬鈴薯、藍等で阿波から移民が多かったことから藍の品質は東京で好評を博するほどであった。

一方、日高の馬産の起源は、文化年間の場所への駅馬の配置に始まる。当時幕府が様似に建設した天台宗「等澗院」の住職が疾病馬を加療・繁殖していた馬群を基礎とし、安政5年には、幕府が元浦河に馬牧を開設した。

明治に変わり、開拓使は明治5年、新冠、静内にまたがる約6,700町歩の土地に、馬の改良を目的に新冠牧場を設置、これが明治17年に御料牧場となり、3年後にはすでにサラブレッドが導入された。

明治20年以降、軍備強化に伴い民間における馬の増殖が図られ、特に日清・日露戦争を契機に馬の頭数は飛躍的に増加し、明治40年、日高種馬牧場が設置され、馬匹の改良と馬産振興を推進することとなり、今日の馬産地「日高」の基礎が作られた。

#### ※ 開 拓 の 経 過

	明治5年	明治10年	明治20年	明治30年	明治40年
耕地面積 (町)	122	446	316	858	16,446
馬 (頭)	不明	2,008	11,653	9,498	12,832

〔資料：北海道庁統計書他〕

2. 日高農業史年表

年 代		日高管内の主なできごと	道内外の主なできごと
西暦	年 号		
1669	慶安 元	シャクシャインの乱。	
1798	10	近藤重蔵、日高・十勝間に山道を開く。(本道初の道路開削)。	
1799	11	幕吏、浦河・様似で穀物・野菜等を試作、牛馬を配置。	東蝦夷地、幕府直轄となる。
1800	12	八王子同心、沙流に入植。	
1804	文化 1	幕府、様似に等測院(天台宗)を建立。	
1805	2	沙流の番人、水田を作り、新米を幕府に献上。	
1811	文政 4	様似(幌満)において水田を試作、収穫。	
1857	安政 5	浦河に幕府直轄の馬牧を設置(明治元年廃止)。	
1869	明治 2	開拓使設置、蝦夷を北海道と改称。当地方は日高国と称した。	
1870	3	彦根藩の家臣120戸234人、門別へ入植。	
		仙台藩の家臣142戸146人、富川へ入植。	
1871	4	徳島藩の家臣137戸546人、静内へ入植。	
1872	5	長崎、熊本の農民21戸93人、浦河(西舎、杵臼)へ入植。 新冠牧場(現農林水産省家畜改良センター新冠牧場)開設。 浦河支庁設置。	
1874	7	浦河支庁廃止、札幌本庁の直轄となる。浦河郡役所設置。	
1881	14	浦河(西舎)へ赤心社第1次入植。	
1882	15	浦河(狭伏)へ赤心社第2次入植。	開拓使を廃止、札幌、函館、根室の3県を 設置。日高は札幌県に所属。
1883	16	新冠牧場に管内省の直轄(御料牧場)となる。	
1884	17	新冠牧場に蒙州より初めてのサラブレッド種導入。	
1886	19		3県を廃止、北海道庁を設置。
1897	30	浦河郡役所廃止、浦河支庁設置(現在の日高支庁)。	
1903	36	赤心社に乳牛(ホルスタイン)導入。	
1905	38		札幌競馬開設。
1907	40	日高種馬牧場(後の日高種畜牧場)開設。	
1923	大正 12		競馬法制定。
1926	15	浦河に測候所開設。	
1932	昭和 7	浦河支庁を日高支庁と改称。	
1936	11		日本競馬会発足。(国営競馬)。
1937	12	国鉄日高線、全線開通。	
1941	16	町立静内農業学校設立。	
1946	21		農地改革開始。
1947	22	新冠種畜牧場用地の一部を民間に開放。	農業協同組合法公布。
1948	23	軽種馬生産農業協同組合北海道支部(現在社団法人日本軽種馬協会日高支部)開設。	
1949	24	新冠種畜牧場、馬匹改良から乳牛改良へ転換。	国営・道営競馬開始。
1950	25	日高種畜牧場用地の一部を開拓地として解放。	北海道開発庁設置。 北海道開発局設置。
1951	26		十勝沖地震。
1952	27		日本中央競馬会(JRA)設立。 洞爺丸台風で青函連絡船沈没。
1954	29	日本中央競馬会宇都宮育成牧場日高支所(現日高育成牧場)開設。 道畜産振興審議会、日高を本道初の高産集約酪農地帯に指定。	農業基本法成立。 農業構造改善事業開始。 東京オリンピック開催。
1961	36	日高軽種馬農業協同組合(HBA)設立。	米生産調整対策開始。 (財)北海道農業開発公社設立。
1962	37		
1964	39	国鉄富内線開通。	
1965	40	日高種畜牧場、馬匹改良から撤退。	
1970	45	北海道襟裳内牛牧場開設。	
1971	46	初めての軽種馬を輸出。(韓国へ100頭。)	
1972	47		札幌オリンピック開催。 ウタリ地区農林漁業対策開始。 (社)北海道軽種馬振興公社設立。 有珠山噴火。 「北海道発展計画」策定。
1976	51		
1977	52	軽種馬の第1次計画生産開始。競走馬特別資金融通。	
1978	53	中央競馬静内場外競馬投票券発売所開設。	
1981	56	軽種馬に対する制度資金の適用が認められる。	
1982	57	浦河沖地震。	
1983	58	軽種馬の第2次計画生産開始。	
1985	60	北海道門別軽種馬トレーニングセンター竣工。 日本軽種馬協会北海道市場開設。 管内農業共済組合広域合併完了。 軽種馬経営改善資金融通。	「北海道農業の発展方策」策定。
1986	61	国鉄富内線廃止。	
1987	62	軽種馬共同育成モデル事業開始。 北海道日高合同庁舎竣工。	「北海道新長期総合計画」策定。
1988	63	支庁に農業振興部設置。	青函トンネル開通。
1989	平成 元	(社)ジャパンブリーダーズカップ協会設立。	道「地域農業のガイドポスト」策定。
1990	2	新冠・日高の種畜牧場が家畜改良センター各牧場に改称。	
1991	3	中央競馬会日高育成総合施設着工。	
1992	4	農林水産省家畜改良センター日高牧場開場。	農水省、新農政プラン公表。
1993	5	日高管内野菜広域出荷推進協議会設立。	全国的大冷害。 ガットワルグアイラウンド妥協。 道「北海道農業のめざす姿」公表。 道「北海道農業・農村振興条例」制定。 「食料・農業・農村基本法」施行。 有珠山噴火・口蹄疫発生。
1994	6	ホッカイドウ競馬静内場外発売所開設。	牛海綿状脳症(BSE)発生。
1997	9	門別競馬場開設。	
1999	11		
2000	12		
2001	13	第30回日本農業賞 集団組織の部 大賞受賞(平取町野菜生産振興会 トマト・胡瓜部会) 静内場外発売所「A i b a 静内」開設。 第40回農林水産祭 日本農林漁業振興会会長賞受賞(平取町野菜生産振興会 トマト・胡瓜部会)。	
2003	15	浦河場外発売所「A i b a 浦河」開設。 台風10号通過に伴う大洪水の発生。 十勝沖地震発生。	
2004	16		ホッカイドウ競馬所属のまま中央競馬G I レースへ出走「コスモバルク号」。 競馬法の改正(主な改正:地方競馬及び競走馬生産支援)。 札幌場外発売所「A i b a 札幌」開設。 札幌場外発売所「A i b a 千歳」、函館場外発売所「A i b a 函館港町」開設。 コスモバルク号がシンガポール航空国際カップ(G I)で優勝。 馬インフルエンザ発生。 登別場外販売所「A i b a 登別室蘭」開設。 口蹄疫発生。 東日本大震災発生。
2005	17	静内農業高校で生産・育成した競走馬の活躍などで道知事感謝状授与。	道内の家畜で初めて高病原性鳥インフルエンザ発生。
2006	18	3カ所あった農業改良普及センターが日高農業改良普及センターとして一本化。	北海道新幹線開業。
2007	19		北海道胆振東部地震発生による建物や道路の破損、大規模な停電や断水が起きた。
2009	21	門別競馬場でグランシャリオナイト開催。	
2010	22	日高支庁から日高振興局へ改称。	
2011	23	平取町のトマトの販売額が40億円を超える。	
2016	28	日高農業改良普及センター日高東部支所が、本所に統合。 台風7号、11号、9号及び10号の接近・上陸による記録的な大雨等の発生。	
2018	30		
2019	元	JRA日高育成牧場、HBAと日高振興局が包括連携協定締結	
2020	2	HBA北海道市場の軽種馬売却総額が過去最高の127億円を記録	ホッカイドウ競馬の発売額が520億円に達し、29年ぶりに発売記録を更新。
2021	3	HBA北海道市場が軽種馬売却記録を3年連続で更新	管内産馬が、国内G I 競走を10勝、統一JPN1競走を6勝、仏国G2を勝利
2022	4	HBA北海道市場が軽種馬売却記録をさらに更新、全セラーで前年の売上げを更新	地方競馬や産地への支援を恒久化する改正競馬法が成立。

# Ⅲ 日高の自然条件

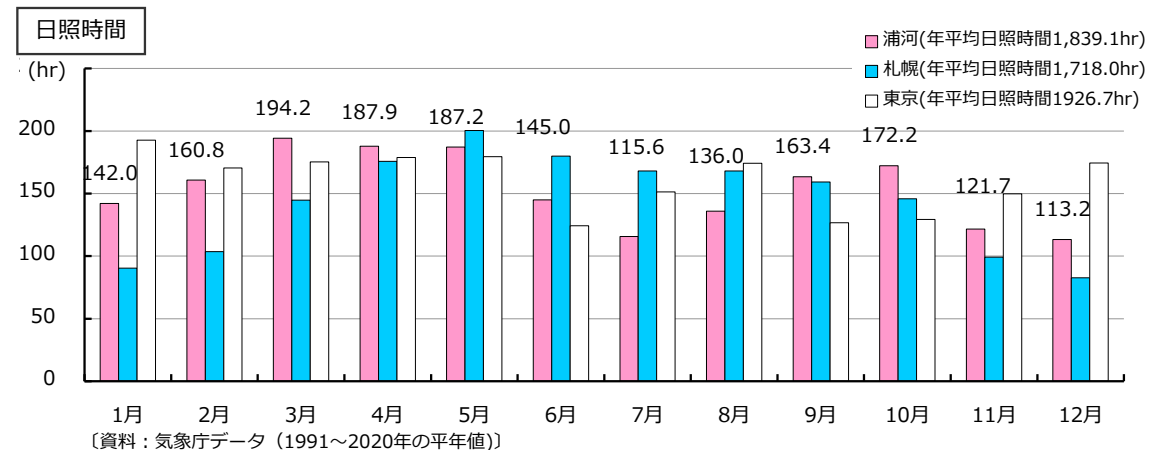
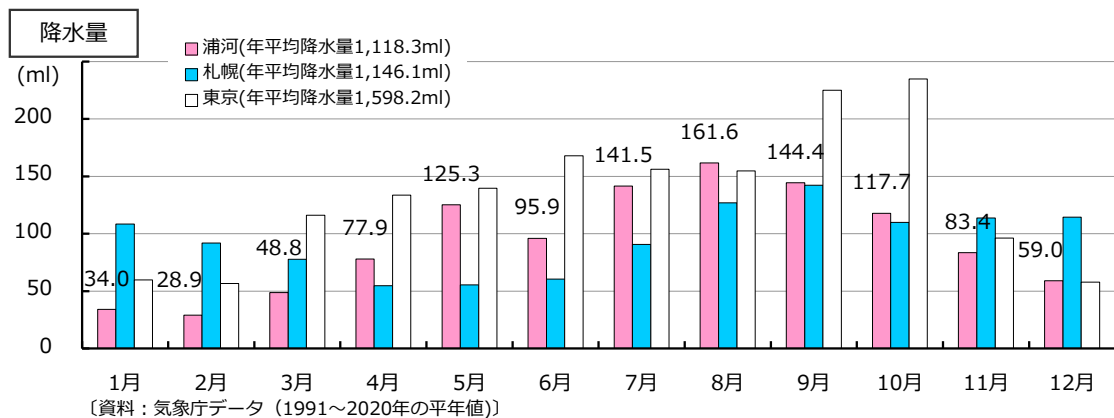
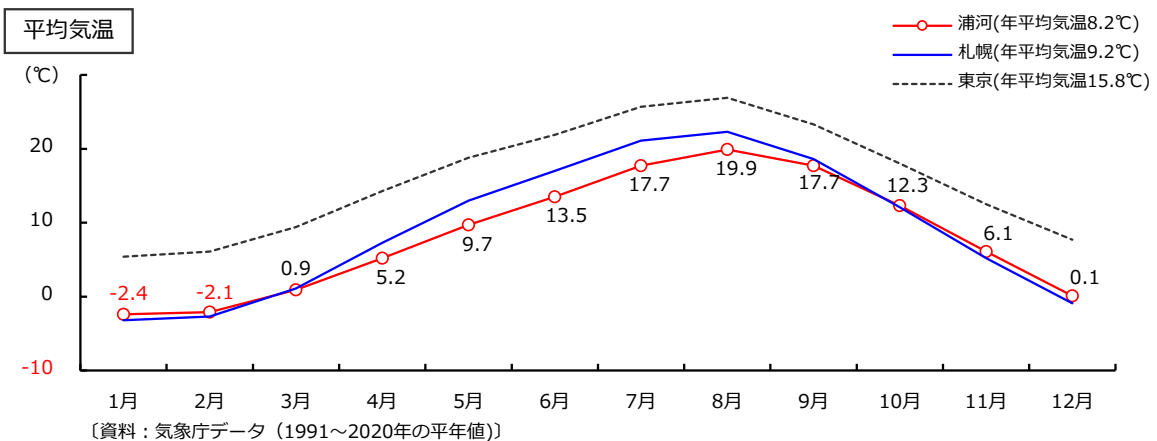
## 1. 気象

日高管内の気候は、比較的温暖であるが、太平洋に面する沿岸部と内陸部に大別され、沿岸部では海洋性気候、内陸部では大陸性気候を示す。

積雪量、降水量は沿岸部では少ないが内陸部では多くなっている。

夏期は、海岸線では海霧が発生し、気温もあまり高くないが、内陸部では気温の変動が大きい。

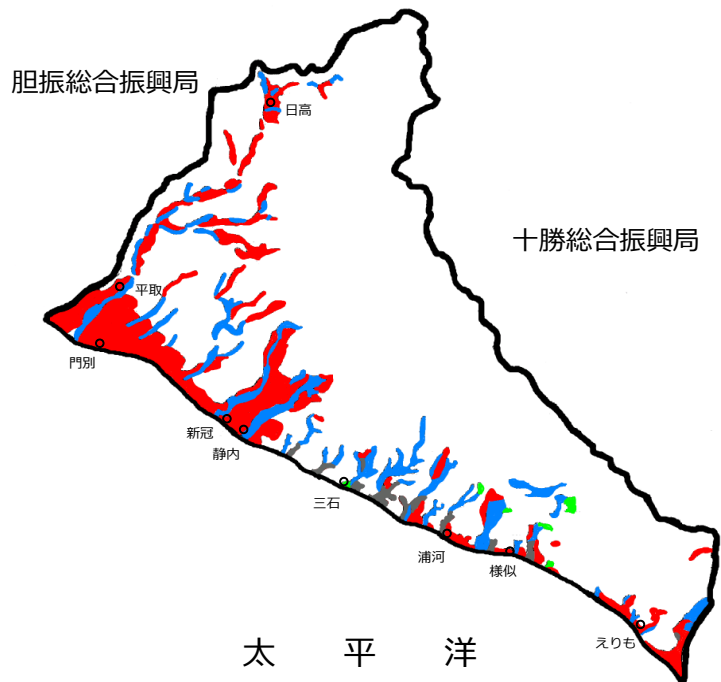
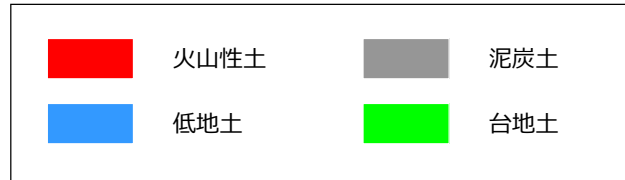
冬期間の最低気温も零下10℃を下回ることが少なく、北海道の中にあつては比較的気候に恵まれた地域といえる。



## 2. 土壌の分布

日高管内の土壌は火山性土が最も多く、次いで低地土、泥炭土、台地土が分布している。  
 火山性土は管内に広く堆積し、西部には粗末な未熟土が多く、中部から東部にかけては黒色を呈する腐植含量の多い土壌が多く分布している。  
 低地土は日高山脈から太平洋岸に向かって流れる、大小河川に沿った沖積土地帯に分布している。  
 台地土は東部の丘陵地帯に褐色森林土が分布している。

土壌区分	北海道農牧地 土壌分類第2次案 中分類	面積 (ha)	割合 (%)
火山性土	砂丘未熟土	1,140	1.6
	火山放出物 未熟土	20,000	27.9
	湿性火山放出物 未熟土	2,630	3.7
	未熟火山性土	202	0.3
	湿性未熟 火山性土	217	0.3
	褐色火山性土	190	0.3
	黒色火山性土	6,530	9.1
	湿性黒色 火山性土	967	1.3
	厚層黒色 火山性土	9,980	13.9
低地土	褐色低地土	17,200	24.0
	灰色低地土	6,780	9.5
	グライ低地土	2,200	3.1
泥炭土	低位泥炭土	2,130	3.0
台地土	酸性褐色森林土	1,560	2.2
総計		71,700	-
うち農牧地及び農牧適地 総計(除市街地)		70,600	100.0
うち耕地		40,000	56.7



〔資料：北海道土壌図 農牧地および農牧適地 1985北海道農業試験場〕

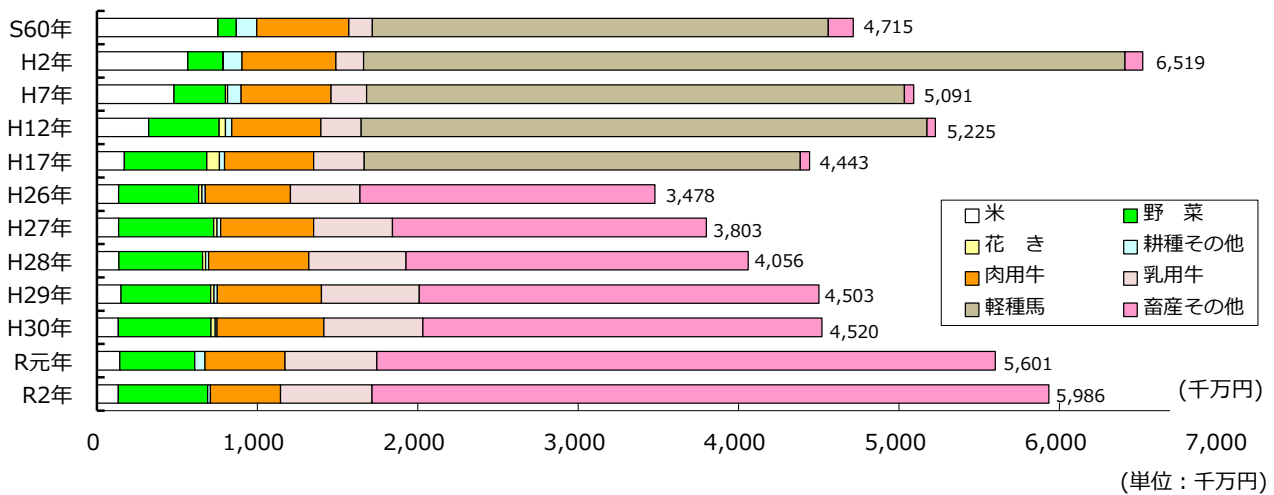
〔資料：北海道の土壌 1985北海道農業試験場〕

# IV 日高農業の現状

## 1. 農業産出額に見る地域の特性

日高管内における令和2年の農業産出額は598億円(推計値)と前年に比べ38億円上回った。  
 また、部門別に全体を占める割合を見ると畜産その他(軽種馬を含む)が70%を占めており、次いで乳用牛及び肉用牛がそれぞれ7~10%、野菜が9%の順となっている。

### <農業産出額の推移>



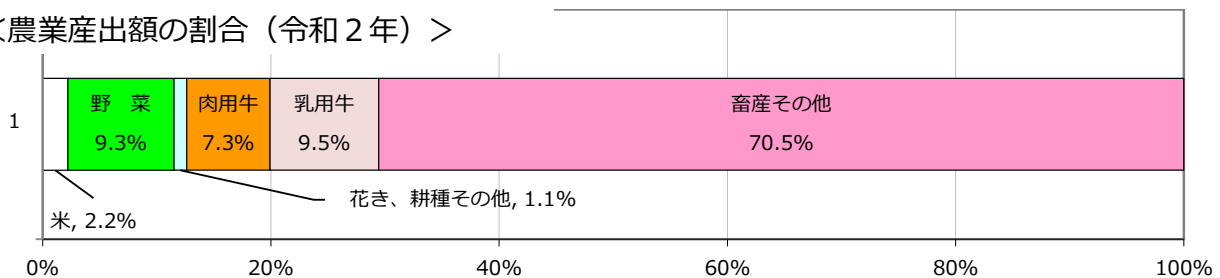
	米	野菜	花き	耕種その他	肉用牛	乳用牛	軽種馬	畜産その他	合計
昭和60年	755	113	-	129	573	147	2,842	155	4,715
平成2年	566	220	1	116	586	174	4,746	110	6,519
平成7年	480	321	13	86	561	220	3,352	58	5,091
平成12年	323	438	41	39	554	253	3,527	51	5,225
平成17年	171	514	78	33	554	316	2,718	59	4,443
平成26年	136	499	20	21	531	432	-	1,840	3,478
平成27年	136	592	20	23	580	492	-	1,957	3,803
平成28年	137	521	20	18	625	606	-	2,133	4,056
平成29年	150	560	20	20	650	610	-	2,490	4,503
平成30年	134	577	26	12	665	617	-	2,489	4,520
令和元年	142	468	X	12	499	571	-	3,857	5,601
令和2年	134	556	X	18	436	570	-	4,221	5,986

〔資料：北海道農林水産統計年報(総合編)、平成26年以降は市町村別農業産出額(推計値)〕

※平成26年以降の「畜産その他」は「軽種馬」を含む。

「-」：事実のないもの 「X」：個人又は法人その他の団体に関する秘密を保護するため、統計数値を公表しないもの

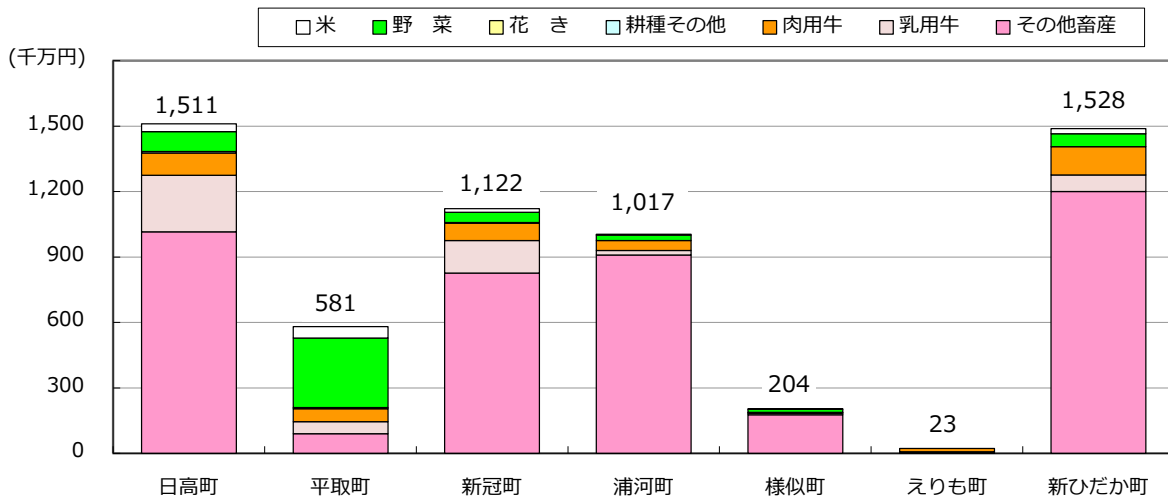
### <農業産出額の割合(令和2年)>



町別農業産出額（推計値）では、新ひだか町が153億円と最も多くなっている。

野菜はトマトを中心とした日高町、平取町、新ひだか町、新冠町で盛んとなっており、軽種馬経営からの複合・転換で増加傾向にある肉用牛は、日高町、平取町、新ひだか町、浦河町、えりも町などで盛んに生産されている。

<町別産出額の構成（令和2年）>



(単位：千万円)

	日高町	平取町	新冠町	浦河町	様似町	えりも町	新ひだか町	振興局計
米	36	52	17	4	2	-	23	134
野菜	91	319	47	25	14	-	60	556
花き	0	-	-	x	-	-	x	X
耕種その他	8	5	2	x	1	0	x	X
肉用牛	102	60	81	45	3	16	129	436
乳用牛	258	55	149	21	7	4	76	570
その他畜産	1,016	90	826	909	177	3	1,200	4,221
合計	1,511	581	1,122	1,017	204	23	1,528	5,986

〔資料：市町村別農業算出額（推計値）〕

※「畜産その他」は「軽種馬」を含む。

「-」：事実のないもの 「X」：個人又は法人その他の団体に関する秘密を保護するため、統計数値を公表しないもの

～ 夏秋どりいちご「すすあかね」の選果場では ～

- J Aひだか東では、浦河町と様似町にある農家のビニールハウス内で栽培された夏秋どりいちご「すすあかね」を共同で選果する2カ所の選果場で梱包されたものを、ケーキ用や加工用として東京などに出荷しています。
- 農協出荷とは別に、最近では札幌や浦河町内でも食べられる店が開店するなど、一層身近なものになっています。

< J Aひだか東ホームページ >  
<https://www.hidaka.or.jp/>

